

教員全体評価アンケート(記述) 集計

(14) SSH事業において「成果をあげている」と考えられる点。

成果

- 1 施設・環境のハード面や講義(講演会)、発表会などのソフト面の拡充及びそれを活かした生徒の総合的な力の向上。
- 2 課題研究。
- 3 賞を取っているので成果を上げている。
- 4 課題研究はほとんどの生徒が行ってよかったと思っていますので価値のあるのだと思う。大学の推薦入試でも十分に活用できる。
- 5 国際交流(シンガポール)。
- 6 1年生のブレ課題研究、2年生の課題研究、そして神高探究などのプロセス、チームとしての活動が自分たちの成長につながっていると思う、大事な柱だと思う。
- 7 課題研究、探究活動の長期間の取り組み。
- 8 課題研究で総合理学科が課題解決の力を大きく伸ばしている。
- 9 神探、課題研究自らの頭で考え判断し、探究する取り組みは、この先専門的な勉強をしていくうえで必要なスキルであり、社会に出ても役に立つと思います。ゴール(正答)を与えられてそこに向かうことには慣れている生徒も、自分でゴールを設定しないといけない、そして答えが出るかもわからない、そういう経験が出来、視野をレベル上でも成果を上げていると思われます。(今回推薦で合格した生徒(神大・阪大)自分の目指すキャリアの分野のテーマ設定し(健康的な朝ごはん)面接でも前面に出しました)
- 10 学校の特徴づくり。
- 11 時間をかけて研究活動に取り組む中で優れた先生達や仲間(校内外の)に出会い、視野を広げていると思います。
- 12 兵庫咲いテク事業でのサイエンスフェアやサイエンスカンファレンス、五国SSH事業プログラムは県内高校生の探究活動を活性化サポート並びに科学技術への興味関心を高めることに多に貢献しており、県職として大きな成果である。神戸高校生にとってはSSHがあることで研究、探究活動や科学技術の啓蒙活動、真のキャリア教育にお金を使えるため制限、制約することが少なくなり、活性化、深化が可能となっている。
- 13 探究活動を行ううえで、物品購入や研修発表会などのサポートが受けられることが非常に大きな力になっており、生徒たちの意欲や能力を引き出している。
- 14 1つのことに取り組む姿勢が身につけている。
- 15 9組の生徒だけでなく、全校の生活に、成長の機会を提供しているため。
- 16 探究活動における普通科への波及効果。
- 17 外部発表、SAの助言等、本校だけではできないことができる点。
- 18 「未知の問題に挑戦する力」を養える。
- 19 発表する機会が多い。
- 20 生徒が主体的に議論を方面付けしたり、そこからの意見集約を行うなど、科学技術に関する知識の習得を基に学習を発展させる力を持ってきている。(授業内や課外活動中に見られる)
- 21 多くの時間を取り、取り組んでいる成果は得られていると思います。・発表機会がたくさんあることで、生徒の力が育っていると思います。
- 22 課題研究、探究、実験実習、特別講義。
- 23 様々な生徒が協同し、課題を解決している点。他校や外部の方から意見をもらい交流している点。

(15) SSH事業において「改善を要する」と考えられる点。

課題

- 1 普通科に触れる機会を増やすためにSSH特別講義を学期末考査後に全員に受講させる。
- 2 普通科の探究活動でSSH事業をもっと利用できたらと考えます。(文系を含めた普及活動に利用できるのなら)
- 3 学校全体でSSH事業を行っている意識がだいぶ薄れてしまっている気がする。部署の取り組みのようになってしまっている。
- 4 スケジュールの調整(改善の余地あり)。
- 5 SSHの指定がどこまであるのか、今後のことを考えて行動などのプランを考え直す必要があると思う。
- 6 生徒に指示するよりも考えさせることが大事指示する場合は根拠をしっかりと示しておく必要あり。
- 7 総合理学科の要素を普通科(神探)へ広げる際、時間などの制約で同じことはできない。何をどこまで広げるかの精査が必要。
- 8 神高探究で設備を使わせていただけることは生徒には、大きなプラスになっていますが、もう少しそれ以外にも普通科の生徒にも活動などが広がっていくことができれば、、、と思います。
- 9 毎回素晴らしい講師や講座が開催されていて(大変興味深い内容です)が、参加者が少ないのがもったいないと思います。放課後は生徒は部活や塾を優先してしまうので、案)いくつかのシリーズの中からマストで1つ受けるというようにしてはどうでしょうか。
- 10 先生方の多大な負担の上に成り立っている点。
- 11 一時期よりSSHが当たり前のように受け取られ、総合理学、探究部以外の職員の協力姿勢が低下している。管理職のリーダーシップのもと、SSH事業の継続のためにも協力体制を充実させる必要がある。
- 12 教員、生徒への負担が大きい。例えば3校合同発表会は必要か。
- 13 普通科の生徒や、教員がもう少しプログラムに参加できるようにする。より、JSTIにアピールできるようになると思います。(夏の交流プログラム)
- 14 SSH事業の見直し、精査(新規、継続、変更、廃止など)をやったらどうか。やっているならいいのですが。
- 15 土日開催の行事をいくつかでも平日に移すことができるほうが良いと思う。(教員・生徒の負担軽減のため)
- 16 特別講義について、放課後→授業時間内に実施は不可能でしょうか。(短編授業で時間を作るとか)普通科にも興味関心を持って生徒がいると思いますが、多く部活動etcで参加できてないと思います。(総理も同じですが)
- 17 一部上記のような活動に参加できていない生徒(総理科の中)に対するフォローアップがない。そのため「参加しなくても自分はヘッチャラ。やりたい生徒(ラスメイト)だけやって問題ない」という学習意識の低下につながっているように思える。もともと生徒(将来的に研究等の活躍が期待される)の為のSSH事業ということを考えると、そういった生徒にもアプローチしておかないと成果は伸びない。(指導体制を整える?)
- 18 「支援体制」はもう少し整理できればと思います。内容の特性上仕方ないかもしれませんが、特定の先生のおかげで頼っている部分が非常に大きいです。
- 19 部活動の兼ね合いに関する指導が教員ごとに違うこと。SSHに対する認識を職員全体で一致させることが必要だと思う。
- 20 探究活動は発表のための研究となりつつあり、活動の時間数が足りないと思われる。
- 21 備品管理や扱い方(乱雑な扱いがある)・予算の使い方。
- 22 総合理学科の生徒が発表前などに夜遅くや休日に教員の監督なしで活動していることがあるように見受けられます。下校時刻を守らせる、教員の監督なしでは校内で活動させないといったことは学校安全上必要なことかと思えます。

(16) ご意見、その他お気づきのことがあれば。

課題

- 1 SSHの事業がどうではなくて生徒のほうが発表(原稿見ながら)やみなで問題解決することを苦手とするようになったのだと思う。
- 2 SSHについて総合理学・探究部の先生方の負担が多い、大きいと思います。学校全体で取り組み、軽減可能なことがあればと思っています。
- 3 過去に購入した備品や物品がどこにだれが管理しているのかわかるようにしてほしい。
- 4 SSH事業について全く知ることができなかった1年でした(実校の作成、採点、その他教科のことでゆとりがなかったからであって、事業については告知はされていました。)